

OASIS4 読解のためのヒント

Lesson1 「動詞と時制」 Reading (本冊子 pp.4-5、Interactive Note p.2)



OASIS4 はかなり難しいです。ゆっくり
でいいので、根気よく取り組んで。

※ 下記の番号①～⑫、⑭⑮は、日本語訳空所補充プリントの文番号に対応しています。

① how often～：どれぐらいの頻度で wrong：間違った first name：(下の) 名前
by～：～によって

② perhaps：たぶん (=ひょっとして) male：男性の accidentally：偶然に、誤って

※ **and** がつなぐ部分を正確につかむ (斜体字部分)

③ at another time：別の折には maybe：たぶん

④ all of～：～はみんな occasionally：時々、時折 make errors：間違いをする
these kinds of～：この種の～ (=こういう)
some of～：～のいくつか (→ ～の中には…なものもある)
get～into trouble：～を問題 (トラブル) に陥れる (=おとし入れる) serious：重大な

※ **and** がつなぐ部分を正確につかむ (斜体字部分)

⑤ psychologist：心理学者 discover：～を発見する such：そのような tell：教える
much：多くのこと remember：覚える

※ **that** 節 (太字部分) の中には、**主語(S)+動詞(V)の構造**が必ずあることを確認
何 (誰) がどう (何を) するかをしっかりと訳す → 最後に「～こと」をつける

that 節内の主語(S)は？ → such errors

動詞(V)は？ → (can) tell

discover + that 節：～であることを発見する

tell ~ about... ~に...について教える (…部分が how~)

- ※ how~部分を正確に読む。how：どのように
how 主語(S)+動詞(V) = どのように S が V するかということ

⑥ study：研究 information：情報

- ※ and がつなぐ部分を正確につかむ(斜体字部分)←今回は、単語と単語をつないでいますよ。

teachers,staff and students は with~の~にあたる部分です。

この部分を文法の説明上、前置詞 (with は前置詞) の目的語として理解してもよいです。

つまり、今回の and は前置詞の目的語にあたる部分をつないでいるわけです。

⑦ all the times：あらゆる場合 someone else：誰か他の人

be asked to do：do するよう依頼される make a list：リストを作る

- ※ a list of~ (=~のリスト) の~の部分が難しいですね。訳のプリントの波線部分に該当する部分です。

all the time \boxed{S} + \boxed{V} の構造をつかんでください。

つまり、they had been called by someone else's name 部分の主語(S)と動詞(V)をしっかり把握して訳し、その部分を all the time (あらゆる場合) にかけるとうまくいきますよ。

「S が V したあらゆる場合」というように。

<時制について>

had been called は、態は受動態で、時制は過去完了ですね。「～された」という訳で結構です。

過去完了形 (had+過去分詞形) は、ある過去の時点（過去形動詞）よりもそれが前に起こったことを表す時に使う時制です。この場合、ある過去の時点というのは were（過去形）です。それよりも前に had been called（過去完了形）ということが起こった。

つまり、「依頼された」時よりも前に「呼ばれた」ということです。単に時系列の問題です。あまり深く考えすぎないように。よくわからなければ、訳だけして全体の意味が分かればそれでよいです。

- ⑧ after 主語(S)+動詞(V) : S が V した後 provide : ~をもたらす、~を提供する
psychologists : 心理学者 look at~ : ~を見る=~に注目する
make a mistake : 間違いをする relationship with~ : ~との関係

※ whom(目的格関係代名詞)と whose(所有格関係代名詞)については、一年生の時に購入したジーニアス総合英語で調べてみてください。基本的には、who のように、後ろに来る部分を関係代名詞の直前にある名詞を修飾するようにかけて訳すといいいのですが。

ここでは、「…な person (人)」というように。

この文章は長いので難しそうに見えますが、しっかりと構造を把握すれば正確に読めます。まずは

※ and がつなぐ部分を正確につかむ (斜体字部分)

ここでは、and は 3 つの部分をつないでおり(A,B and C の形)、またそのそれぞれが長いです。

わかりやすいように、訳のプリントでは三段に分けて書きました。

and がつなぐ 3 つの部分は以下ようになります。

<1> the people who made the mistakes

<2> their relationship with the person whom they called by the wrong name

<3> their relationship with the person whose name they used

それぞれをしっかりと訳してみてください。

そして、訳せたら、この3つが全て、look at~の~の部分、つまり look at~の目的語であることも確認してください。「~に注目した」の~部分、つまり、「何に注目したのか？」の「何」の部分が3つあるんですよ。

⑨found : find (～を見つける) の過去形 tend to do : do しがちである

confuse : ～を混同する、～を混乱させる

similar : 同じ (ような) both of~ : ～の両方

※ **that** 節 (太字部分) の中には、**主語(S)+動詞(V)**の構造が必ずあることを確認

何 (誰) がどう (何を) するかをしっかりと訳す → 最後に「～こと」をつける

that 節内の**主語**は? → we

動詞は? → tend

find + that 節 : ～であることを発見する

⑩may have done : do したかもしれない male : 男性の both : 両者

in a position of~ : ～の立場にいる guidance : 指導

※ **and** がつなぐ部分を正確につかむ (斜体字部分)

⑪rarely : めったに～しない involve : ～を含む、～に関わる (=～を入り組ませる)

different : 異なった type of ~ : タイプの～

※ involving~ 分詞の限定用法 (=名詞を修飾するタイプの分詞) として解釈します。

つまり、直前にある errors を修飾します。

⑫probably : たぶん、おそらく unless : もし～でなければ、～でない限り

argument : 議論 remind A of B : A に B を思い起こさせる/思い出させる

※ **unless** の後（太字部分）には、**主語(S)+動詞(V)の構造**があることを確認

※ 何（誰）がどう（何を）するかをしっかりと訳す → 動詞は必ず否定形で訳して、最後に「（～しない）かぎり」などをつける。

※ unless の後の文の**主語**は？ → the arguments

※ **動詞**は？ → remind

では、you have with your teacher の部分はどうでしょうか？ have の後ろにあるはずの目的語がないことに注目。それはどこにいきましたか？

※ those：一度出てきた語（複数形の名詞）を繰り返さないために使われています。その複数形の名詞とは、arguments です。

arguments you have with your teacher

those you had with your friend

上記の2つの語句は、なんか出てくる単語や並びが似ていますよね。訳せましたか？

何度も何度も口に出して読んでみるのもいいですよ。そうやっているうちに構造や意味が見えてきたりもします。

⑭ suggest：～を示唆する social：社会的な relation：関係 organize：～を整理する

memory：記憶 not only **A** but also **B**：**A**だけではなく**B**も

in terms of～：～の観点から individual：個々の

※ **that** 節（太字部分）の中には、**主語(S)+動詞(V)の構造**が必ずあることを確認

何（誰）がどう（何を）するかをしっかりと訳す → 最後に「～こと」をつける

that 節内の**主語**は？ → ??

動詞は？ → ??

that 節にもそろそろ慣れてきたと思いますので、自分で見つけましょうか。

suggest + that 節：～であることを示唆する

※ not only A but also B の A は何か B は何か。見つけてください。

ヒント：似たような、というか、ほとんど同じ形をしている 2 つです。

⑮ thus：だから、それゆえ one of～：～のひとつ reason：理由

mistake A for B：A を B と間違える another：別の人 store：～を貯える

by mistake：誤って close to～：～に（非常に）近い too：あまりにも～すぎる

※ that 節（太字部分）の中には、**主語(S)+動詞(V)の構造**が必ずあることを確認

何（誰）がどう（何を）するかをしっかりと訳す → 最後に「～こと」をつける

that 節内の**主語**は？ → information

動詞は？ → (may) be

ここの文も大変難しいと思います。もう日本語訳は書いてあるので、ざっと全体の構造を説明しておきますね。

主語は one of the reasons 「理由の一つ」です。正確に言うと one ですが、ここでは意味のかたまりで話をしておきます。

動詞は is です。

つまり、全体としては SVC の文章(例：He is a teacher.などが代表的な SVC の文章です。構造自体は同じです)で、「理由の一つは…です」という意味になります。

ただ、その他の情報が非常に多いです。

たとえば、理由と言われても、何の理由？となりますね。何の理由でしょうか。探してみましよう。情報を探すということが、文を読むということです。

主語と動詞の間にある部分をしっかり読めば答えは出ますね。

the reasons we mistake one person for another の部分です。

the reason (理由) という語が出てきたら、その後ろに「何の理由か」が書かれていると考えてください。つまりここでは、we mistake one person for another の部分です。

「私たちが one person を another と mistake する」理由ですね。

これでやっと全体の主語、S の部分が訳せました。

次は、C (補語) の部分。

これが、that 節の部分 (太字部分) です。日本語訳と確認しながら、理解してみてください。

解説は以上です。

OASIS 4 は難しいですね。

一気に理解しなくてもいいですよ。解説も多いですし、真剣に取り組めば考えて立ち止まることもあるでしょう。一読してわからなければ、またやり直してもよいでしょう。

まずは、ここまでたどり着いた人はお疲れ様。